

PROUSION® 配合クリームはストレスを軽減できるか…?

橋本政和¹⁾・池田真徠²⁾・榎 信一²⁾

NPO 法人 日本健康事業促進協会¹⁾・Academy of Total Bio Balance Therapy²⁾

【目的】

PROUSION® 配合製品は、末梢血流改善効果を持つことが実証されている。血流と自律神経系は相関する。

そこで PROUSION® 配合クリームを使った施術で、唾液中アミラーゼに変化が見られるかを測定した。

【状況】

- 唾液アミラーゼモニター (ニプロ社製) を使用。ストレス値が高まり交感神経が興奮すると、唾液アミラーゼ活性 (SAA) が高まる。SAA は血漿ノルエピネフリン濃度と相関関係があり、唾液アミラーゼモニターはこれを利用する。このシステムは、慢性ストレスよりも急性ストレスに反応する。
- 食後すぐに測定すると消化の影響で高い値が出ることもある為、食後 1 ~ 2 時間後に測定する。
- 飲み物や、うがい後は唾液が薄まり低い値が出るので、5 分以上おいてから測定する。
- 高齢者は唾液の分泌量が少ない為、前後変化を測定しづらいことから、被験者は 20 ~ 69 歳までとした。
- 唾液は耳下の分泌は α アミラーゼ以外の成分が多く

なる為、舌下で摂る。

- 入室後 10 分安静。唾液アミラーゼモニターにより施術前の α アミラーゼ濃度を測定。PROUSION® 配合クリームおよび PROUSION® 非配合クリームを使い、20 分施術。施術終了 5 分経過後、2 回目の測定を行なった。クリームの成分は同じ。施術は前腕部と肩、頸部のみとし、圧力はマッサージのような刺激性のあるものではなく、皮膚に触れる程度とした。
- PROUSION® 配合 24 例、非配合 (プラセボ) 23 例。
- 測定は二重盲検法のもとに行われた。

【結果】

PROUSION® 配合の有無に関わらず、施術による反応でも α アミラーゼ濃度に変化が起きた。但し配合の有無の比較では、明らかに PROUSION® 配合クリームによる施術の方が α アミラーゼ濃度の低下を示した。

PROUSION® 配合クリームと筋膜施術は、血流改善のみならず、自律神経系の興奮抑制に寄与することが示唆された。

(第 4 回 日本健康促進医学会 学術総会 / 2017 年 7 月 8 日)

